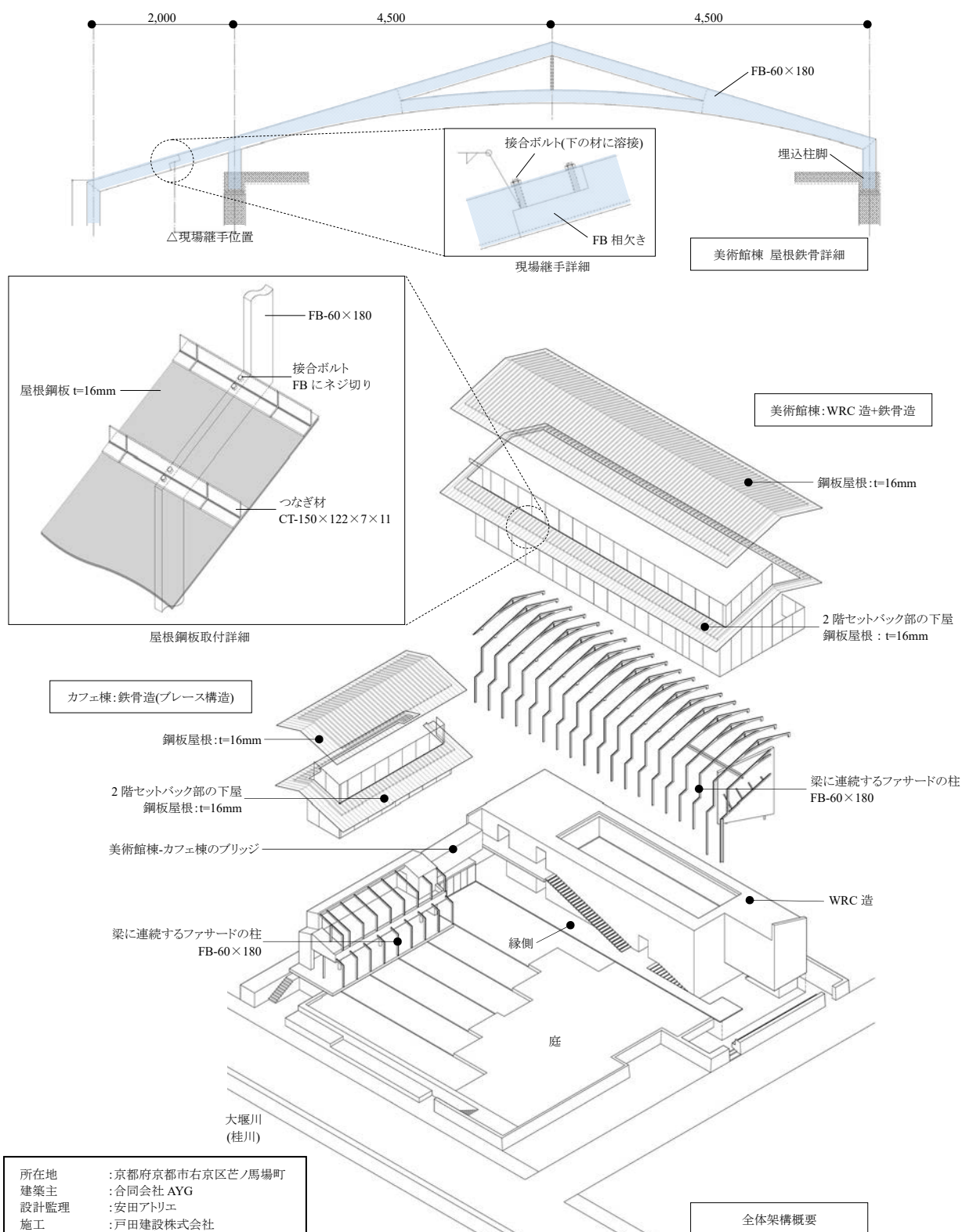


# 福田美術館

第33回 JSCA 賞 新人賞 岡山 俊介



撮影 新建築社写真部



撮影 石黒守



京都嵐山の景勝地、渡月橋のふもとに建つ私設の美術館である。大堰川に面した敷地には WRC 造+鉄骨造の美術館棟と鉄骨造のカフェ棟の2棟が Exp.J で分離されて計画された。どちらの建物も敷地内の庭に面したファサードに FB(フラットバー)の柱を用いており、立ち上がった柱はそのまま折れ曲がり屋根梁になることが特徴である。2m 跳ね出す軒を薄くつくるため屋根は 16mm 厚の鋼板でつくっている。鋼板屋根は水平剛性確保だけでなく、2階セットバック部分の下屋で FB の柱の座屈補剛を兼ねることで、ファサード面の高さ約 6m における見付幅 60mm の FB の柱の細長比を 200 程度に抑えている。FB の梁が現しとなるため、内観からは一方の梁だけが現れる意匠にこだわり、直交するつなぎ材は屋根鋼板上から取り付けるディテールとし、天井面をすっきり見せている。

美術館棟は展示室を WRC 造のボックスでつくり、上記鉄骨架構がボックスを覆う構造形式で、水平力のほとんどは WRC 造部分が負担する計画となっている。カフェ棟は下部地盤に埋蔵文化財の恐れがあり、軟弱な表土が支持層となることから軽量化のため鉄骨造のブレース構造を採用している。

美術館棟の庭に面した部分には緑側と呼ぶ空間が計画されており、大半が 2 層吹抜けとなる。ファサードに作用する面外風圧力や面内地震慣性力は、座屈補剛にも用いた下屋を利用して WRC 造躯体へ伝達させることで繊細な鉄骨部材断面を実現している。また、鉄骨部材がそのまま現しとなるなかで、製作及び運搬上必須となってしまう現場継手を照明位置に合わせて計画することで目立たなくさせている。

所在地	: 京都府京都市右京区芒ノ馬場町
建築主	: 合同会社 AYG
設計監理	: 安田アトリエ
施工	: 戸田建設株式会社
主要用途	: 美術館
延床面積	: 1,103.58 m <sup>2</sup>
階数	: 地上2階、地下1階
建物高さ	: 9.90 m
構造	: RC造・S造